

受賞おめでとうございます

自治功労者表彰式・合同表彰式感謝状伝達式

二十一年度町自治功労者表彰式は十一月三日、町役場で開かれ、津金要雄町長が自治、教育、産業、民生の分野で公共の福祉や町政に功労のあった十一人を表彰、また、寄付などをした善行者二人に感謝、その功績をたたえました。

が「受賞の感激を胸に刻み、これからも地域社会に貢献していきたい」と謝辞を述べました。

表彰された皆さんは次のとおり(敬称略)。

◆功労者表彰

午前十時から開かれた表彰式には受賞者をはじめ、町議会、関係機関・団体の来賓など約四十人が出席しました。

津金町長が「これからも町政発展のため指導協力をお願いします」とあいさつをした後、功労者十一人と善行者二人に、それぞれ表彰状、感謝状が贈られました。

◆善行者表彰

表彰に続いて、関沢和人町議会議長が祝辞を寄せました。

受賞者を代表して安部慎一さん(50)＝本町＝

▽教育委員会委員長長功績
▽安部慎一▽有害鳥獣駆除隊員功績
▽土屋七郎▽民生児童委員功績
▽代田悦子、中村賢三、野沢光子▽情報公開審査会委員功績
▽佐藤隆夫、阿部隆郎▽環境美化推進員功績
▽本間正、田中徳英、磯川猪四郎▽食生活改善推進員功績
▽鈴木敬子

▽美術作品寄贈功績
▽相田幸男▽文化センター建設・社会福祉事業への継続寄付功績
▽佐藤マツ



津金町長、関沢議長を中心に受賞された皆さん

二十一年度合同表彰式感謝状伝達式は十一月十四日、町体験交流館学びいで開かれ、各種コンクールの受賞者などに賞状、感謝状が贈られました。

表彰された皆さんは次のとおり(敬称略)。

二十一年度「健全な社会環境づくり運動」
標語コンテスト入選者

【小学生の部】

最優秀賞 宇南山直紀(翁島)

優秀賞 兼子優衣(千里)

優秀賞 長沼龍馬(猪苗代)

優秀賞 鈴木麻美(翁島)

佳作 長谷川莉瑚(猪苗代)

橋本瑛(猪苗代)

川井彩乃(翁島)

【中学生の部】

最優秀賞 遠藤美沙希(猪苗代)

優秀賞 渡部光亮 福田光希 渋谷のぞみ(すべて猪苗代)

佳作 浅川真有 田沢駿

中村豪(すべて猪苗代)

【高校生の部】

最優秀賞 渡部美桜(猪苗代)

優秀賞 伊藤舞 渡辺晴香 長田なつみ(すべて猪苗代)

佳作 佐藤真美 一ノ瀬翼 渡部歩(すべて猪苗代)

【一般の部】

最優秀賞 山内喜世子(神明町)

優秀賞 伊藤ツヤ子(神明町)

山内隆幸(神明町)

篠原ミツ(神明町)

佳作 古川芳昭(白木城)

山田英作(名家)

佐々木裕美子(三城湯)

二十一年度「ごみ減量化・リサイクル推進ポスター」コンクール入選者

最優秀賞 安部駿人(猪苗代)

優秀賞 遠藤真桜(吾妻)

小林将(猪苗代)

半沢勝人(長瀬)

佳作 伊藤翼(猪苗代)

佐藤亜樹(翁島)

大槻佳乃子(千里)

大坂龍裕(長瀬)

長谷川想(猪苗代)

安部沙耶(緑)

鈴木麻真(吾妻)

渡部真綺(猪苗代)

喜多見理加(千里)

環境美化推進員感謝状受賞者

猪苗代地区 高田喜志男 宇南山隆
矢森章雄 鈴木美喜雄
小坂橋衛 鈴木久信
角田栄次
翁島地区 山内一郎 古川裕一
小野木照夫 渡部茂
鈴木春夫
千里地区 真島由一 鈴木公明
月輪地区 佐藤一郎 柴田肇
渡部勝 小松山常雄
長瀬地区 松本伸 本多和男
齋藤力衛
吾妻地区 遠藤正孝 小椋重政
小本良司郎 五十嵐郡衛

福島県共同募金会長感謝状受賞者

一般募金 戸田忠義 田中稔務 野口森雄 佐藤弘(故人) 鈴木正夫 鈴木明
歳末たすけあい募金 渡部利 半沢万平(故人) 渡部新司 遠藤修郎 大友健市



福島県知事表彰 渡部宗揮(島田)
福島県統計協会名誉会長表彰 小松山栄喜(称次) 土屋俊雄(川桁)

統計功労者表彰

有限会社吾妻食品 医療法人ケアテル 社会福祉法人蘭山会特別養護老人ホーム咲楽の里 会機工業株式会社

福島県赤十字血液センター所長感謝状受賞者

一般募金 有限会社五十嵐自動車整備工場 猪苗代町老人クラブ連合会 歳末たすけあい募金 西円寺佛教壮年会・婦人会 あいづ農業協同組合青年連盟猪苗代地区 あいづ農業協同組合女性部連盟猪苗代支部

【団体の部】

有限会社吾妻食品 医療法人ケアテル 社会福祉法人蘭山会特別養護老人ホーム咲楽の里 会機工業株式会社

路線バスに関するアンケートの結果をお知らせします

急速に進む高齢化社会に対応するため、既存路線への要望や公共交通空白地域の人の要望などの実態を調査した結果を公表します。

アンケート集計・分析結果

アンケート用紙配布数 1,000 世帯 回答数 480 世帯
回収率 48.0%

内 有効回答数 446 世帯 有効回答率 92.9%
無効回答数 34 世帯 無効回答率 7.1%

内 500 世帯→路線バス沿線地域
有効回答数 235 世帯 有効回答率 47.0%

内 500 世帯→公共交通空白地域
有効回答数 211 世帯 有効回答率 42.2%

①路線バスの利用者は、回答者全体の26.5%と約4分の1程度。吾妻地区の人、60歳以上の人、女性の利用が多い。

利用しない人の主な理由としては、「自分で車を運転する」「家族が自動車で送迎」「利用する機会が無い」という路線バスの利便性に直接起因しない理由で61%を占めている。

これは、経済成長とともに進んだ急速な自動車の普及や道路等の社会資本の整備が進んだことにより、公共交通を必要としないライフスタイルが確立されたことや、小規模集落が広大な町土に点在している本町の地域性などにより、自動車に依存しなければならない環境にあることなどが考えられる。

路線バスの利便性等に直接起因する理由で利用しない人のうち、月輪地区、千里地区および翁島地区の人は、路線バスが走っていないことや路線バスがあってもバス停留所が無いことなどで、ほとんどの人が利用していない状況である。

②路線バスの利用者の行き先と目的は、「町内」に「病院や買物」

特に、60歳以上の高齢者、吾妻地区の人および女性の利用割合が非常に高く、この人たちにとって路線バスは重要な公共交通であることが伺える。

③路線バスの利用者の利用時間帯は「行き」は午前、「帰り」は午後

「行き」の利用時間帯は、「午前7時～9時前」が半数を占め、「午前9時～正午」までを合わせると、85%の人が午前中に利用している。「帰り」は午後3時～6時が多く、正午～午後3時までを合わせると74%の人が午後に利用していることが分かる。

④路線バスの利用者の要望は「本数が少ない」と「もっと早い時間帯と遅い時間帯」

路線バスについて、運行本数や運行時間帯に対する要望もあるが、一方で「現行のままで良い」という意見も半数近くある。

⑤利用者の増加対策は、「新たな交通システムの導入」「新たな路線バス」「現在の路線バスの「料金を下げる」「バス停の増」「増便」

路線バスの利用者が増加する条件としては、デマンド型のバスやタクシーなどの新たな交通システムを導入すれば利用者の増加が図られるとの声が多いが、料金の値下げや、新たな定期路線バスを走らせる、バス停を増やす、増便するなど現在の路線バスの環境を改善すれば利用者の増加が図られるとの声も多い。

※詳細については町ホームページをご覧ください。
●問い合わせ先 企画財務課企画調整業務 ☎(62) 2112